

表Ⅱ-2-1 年間報告数、定点あたり報告数、警報・注意報発生数（インフルエンザ）
(インフルエンザ)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	825,654	263,324	678,319	1,249,027	781,637	108,653	757,837
定点あたり報告数	193.13	57.01	144.50	264.68	165.69	44.75	312.12
観察延べ週数	30,104	29,536	29,522	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	1,655	127	968	2,886	1,639	217	3,573
(割合;%)	5.5	0.4	3.3	9.8	5.6	0.7	10.9
注意報あり延べ週数	1,387	793	1,711	1,816	1,304	620	1,512
(割合;%)	4.6	2.7	5.8	6.2	4.4	1.9	4.5

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週
1993年-1997年:各年次の第1週～最終週
観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計

表Ⅱ-2-2 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（咽頭結膜熱）
(咽頭結膜熱)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	11,961	23,565	23,520	16,521	46,132	4,263	10,665
定点あたり報告数	4.12	7.85	7.76	5.43	15.13	1.76	4.39
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	264	879	1,030	525	2,137	601	1,619
(割合;%)	0.9	3.0	3.5	1.8	7.2	1.8	5.0

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。
1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。
観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表Ⅱ-2-3 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）
(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	127,220	172,969	153,943	150,227	188,612	60,007	84,107
定点あたり報告数	43.81	57.60	50.82	49.34	61.87	24.71	34.88
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	1,378	2,283	1,911	1,556	2,460	1,093	1,766
(割合;%)	4.6	7.7	6.5	5.3	8.3	3.3	5.2

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。
1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。
観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表Ⅱ-2-4 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（感染性胃腸炎）
(感染性胃腸炎)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	855,652	899,650	872,098	880,309	940,362	469,333	586,809
定点あたり報告数	294.63	299.58	287.90	289.14	308.46	192.51	498.41
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	1,947	2,061	1,788	1,624	1,837	1,208	2,377
(割合;%)	6.5	7.0	6.1	5.5	6.2	3.6	7.3

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。
1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。
観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表 II - 2 - 5 年間報告数、定点あたり報告数、警報・注意報発生数（水痘）

(水痘)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	244,000	293,860	253,057	262,620	264,180	178,209	190,108
定点あたり報告数	84.02	97.85	83.54	86.26	86.66	73.40	77.98
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	839	1,266	775	849	917	1,400	1,539
(割合;%)	2.8	4.3	2.6	2.9	3.1	4.1	4.7
注意報あり延べ週数	1,802	2,191	1,721	1,756	1,808	2,013	2,299
(割合;%)	6.0	7.4	5.8	6.0	6.1	6.2	6.9

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計

表 II - 2 - 6 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（手足口病）

(手足口病)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	54,261	210,964	124,512	91,696	170,934	24,545	158,677
定点あたり報告数	18.68	70.25	41.10	30.12	56.07	10.07	65.35
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	494	3,099	1,526	862	2,378	323	3,888
(割合;%)	1.6	10.5	5.2	2.9	8.1	1.0	11.9

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表 II - 2 - 7 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（伝染性紅斑）

(伝染性紅斑)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	25,094	42,967	69,947	49,357	39,945	12,850	54,815
定点あたり報告数	8.64	14.31	23.09	16.21	13.10	5.29	22.74
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	508	920	1,928	1,280	615	408	3,025
(割合;%)	1.7	3.1	6.5	4.3	2.1	1.2	8.9

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表 II - 2 - 8 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（百日咳）

(百日咳)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	3,369	3,532	1,690	1,404	1,607	2,741	5,697
定点あたり報告数	1.16	1.18	0.56	0.46	0.53	1.14	2.34
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数	91	114	36	40	31	281	686
(割合;%)	0.3	0.4	0.1	0.1	0.1	0.8	2.1

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表 II - 2 - 9 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（風疹）

(風疹)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	127,220	172,969	153,943	150,227	188,612	16,239	147,861
定点あたり報告数	43.81	57.60	50.82	49.34	61.87	6.70	61.20
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数 (割合;%)	1,378 4.6	2,283 7.7	1,911 6.5	1,556 5.3	2,460 8.3	1,673 5.1	9,609 29.1

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週の警報・注意報あり延べ週数をしめした。

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表 II - 2 - 10 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（ヘルパンギーナ）

(ヘルパンギーナ)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	156,236	147,511	142,542	112,352	148,481	60,007	84,107
定点あたり報告数	53.80	49.12	47.06	36.90	48.70	24.71	34.88
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数 (割合;%)	2,358 7.8	1,829 6.2	1,955 6.6	1,265 4.3	2,140 7.3	1,093 3.3	1,766 5.2

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表 II - 2 - 11 年間報告数、定点あたり報告数、警報・注意報発生数（麻疹）

(麻疹)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	9,860	28,299	28,105	11,446	6,428	15,682	34,556
定点あたり報告数	3.40	9.42	9.28	3.76	2.11	6.50	14.30
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数 (割合;%)	364 1.2	1,120 3.8	1,348 4.6	373 1.3	138 0.5	1,435 4.2	2,708 8.2
注意報あり延べ週数 (割合;%)	677 2.2	1,801 6.1	1,732 5.9	859 2.9	517 1.8	1,725 5.2	2,788 8.5

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計

表 II - 2 - 12 年間報告数、定点あたり報告数、警報・注意報発生数（流行性耳下腺炎）

(流行性耳下腺炎)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	89,697	174,580	253,417	145,886	82,987	70,921	150,385
定点あたり報告数	30.89	58.13	83.66	47.92	27.22	29.21	62.37
観察延べ週数	30,104	29,536	29,523	29,468	29,484	32,627	34,050
警報あり延べ週数 (割合;%)	442 1.5	1,264 4.3	2,629 8.9	1,250 4.2	325 1.1	1,122 3.40	3,224 9.50
注意報あり延べ週数 (割合;%)	657 2.2	1,532 5.2	2,363 8.0	1,199 4.1	486 1.6	688 2.1	1,586 4.7

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計

表Ⅱ-2-13 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（急性出血性結膜炎）

(急性出血性結膜炎)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	1,466	1,396	1,286	972	1,023	411	6,357
定点あたり報告数	2.39	2.19	2.02	1.55	1.53	1.30	20.31
観察延べ週数	20,564	20,176	20,087	19,912	20,137	14,213	17,854
警報あり延べ週数	524	461	351	311	340	249	536
(割合;%)	2.5	2.3	1.7	1.6	1.7	1.7	3.0

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

表Ⅱ-2-14 年間報告数、定点あたり報告数、警報発生数（流行性角結膜炎）

(流行性角結膜炎)

	年度					1993-1997年	
	1999	2000	2001	2002	2003	最小値	最大値
報告数	31,583	42,572	38,617	33,343	31,678	13,207	22,134
定点あたり報告数	51.43	66.90	60.62	53.32	52.36	41.93	70.72
観察延べ週数	20,564	20,176	20,087	19,912	20,137	14,213	14,705
警報あり延べ週数	342	838	668	488	321	328	704
(割合;%)	1.7	4.2	3.3	2.5	1.6	2.3	5.0

1999年-2003年度:当該年の第13週～次年第13週。

1993年-1997年:各年次の第1週～最終週。

観察延べ週数:定点数が1以上の保健所で、報告のあった週の合計。

図 II - 2 - 1 各疾患における定点あたり報告数

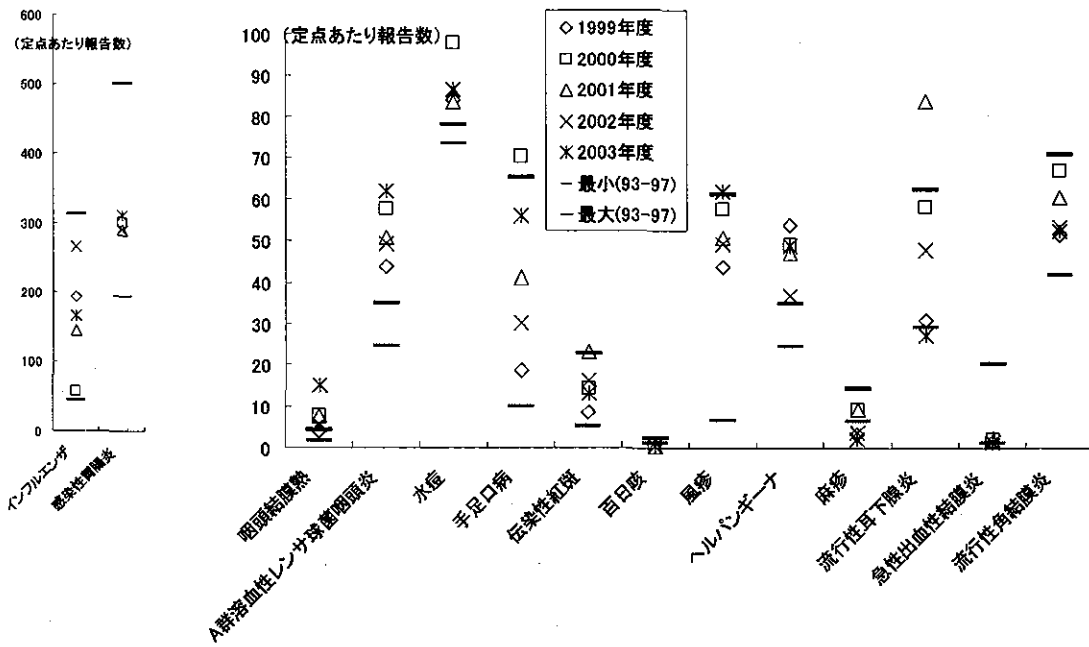
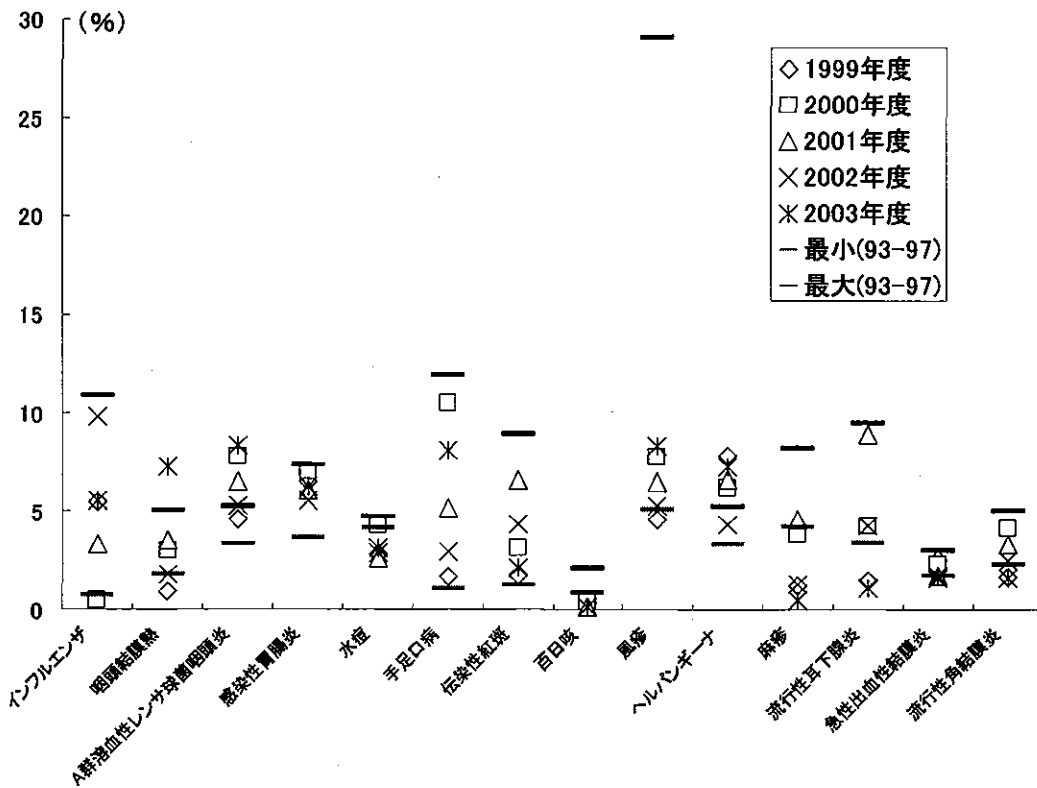


図 II - 2 - 2 各年度における警報ありの割合



II-3. 警報の都道府県単位での発生に関する検討

1) 都道府県における警報発生の意義

本グループで提案・検討してきた感染症発生動向調査に基づいた警報・注意報発生システムにおける警報・注意報の目的として、警報・注意報が発生した当該保健所においては感染症流行の早期検知と流行拡大の防止、周辺保健所においては感染症流行に対する注意喚起と予防対策への準備、都道府県の公衆衛生主管部局においては県内の流行状況の把握と大規模流行の検知と対策などが挙げられる。週別保健所別定点あたり報告数を最小単位とし構成された本方法は、保健所における上記目的に合致したものであるが、より広域である都道府県の感染症の流行予防を念頭においた場合、都道府県全体に対する警報・注意報のあり方を考える必要がある。本章では本研究班で進めてきた、感染症発生動向調査の報告数データを使用した警報・注意報発生法をふまえ、報告数データによる都道府県の警報の発生方法について検討を行う。

2) 都道府県における警報発生方法

都道府県における公衆衛生主管部局が担当する感染症対策に関するものとして、非流行期・流行期を含む全期間における都道府県内の感染症発生状況の把握とともに、流行期における都道府県レベルでの感染症大規模流行の早期検知などがある。都道府県内の感染症発生状況は、各都道府県の感染症情報センターが把握し情報発信を行っており、そこでは保健所別の週別定点あたり報告数および保健所を単位とした警報・注意報情報が活用されている。また都道府県レベルでの感染症の大規模流行の早期検知については、現在各都道府県で様々な対応がなされていると思われる。感染症流行の指標として保健所別定点あたり報告数が使用されている現状を考えると、保健所別定点あたり報告数を基本単位とし、保健所別警報・注意報に立脚して都道府県での感染症警報・注意報を考えるのが実際的であると考えられる。保健所別に発生した警報をもとに都道府県内の感染症流行を検知する方法として以下の4つがあげられよう。

1. 都道府県内保健所の一つ（もしくは一定数）で警報が発生した場合を都道府県の警報発生とする。
2. 警報を発生した保健所数を対象とし、都道府県内の保健所に占める割合が基準を超えた場合、都道府県の警報発生とする。
3. 警報を発生した保健所管轄人口を対象とし、警報発生下にある保健所管轄人口が一定数を超えた場合、都道府県の警報発生とする。
4. 警報を発生した保健所管轄人口を対象とし、都道府県内人口に占める割合が基準を超えた場合、都道府県の警報発生とする。

1. と3. は数を使用した絶対的な評価、2. と4. は割合を使用した相対的な評価であり、1. と2. は警報を発生した保健所数を、3. と4. は警報を発生した保健所管轄人口を使用している。なお2. は国立感染症研究所感染症情報センターホームページに掲載のインフルエンザ流行レベルマップで試行的に使用されているものであり、4. はアメリカ合衆国CDCで採用されている方法である。本報告では相対的な評価である2. と4. に1. を加えた3つの手法について、1999-2003年感染症発生動向調査データに適用し、実際の発生状況を検討する（なお3. は都道府県間で人口がまちまち

で一定の基準を設定することは難しいと思われ、今回の検討から除外した)。

3) 検討方法

はじめに都道府県別の保健所別警報・注意報の発生状況を把握するために、「II-2. 発生状況の推移」で算出した警報・注意報の1999-2003年度の発生数を都道府県別に集計した。つぎに、都道府県警報の発生状況の検討を行うために3つの方法について1999-2003年度の警報の発生数を都道府県別に算出した。検討を実施した方法は以下の3つである。

- 方法1. 警報発生下にある保健所管轄人口を対象とし、都道府県内人口に占める割合が一定以上になった場合を都道府県の警報発生とする
- 方法2. 警報を発生した保健所数を対象とし、都道府県県内保健所に占める割合が一定以上の場合を都道府県の警報発生とする
- 方法3. 都道府県内保健所の一つ（もしくは一定数）で警報が発生した場合を都道府県の警報発生とする

方法1で使用した保健所管轄人口については平成12年国勢調査の市町村別人口データより算出した。方法1については、警報下にある保健所管轄人口の都道府県人口に対する割合が50%を超えた場合都道府県の警報発生と規定し、警報発生数を算出した。方法2については、警報下にある保健所数の割合が50%を超えた場合都道府県の警報発生と規定し、警報発生数を算出した。なお方法1、方法2の基準値については、基準値を30%、70%と変化させたケースに対しても実施し、警報の発生状況の変化を検討した。

4) 結果

2003年度(2003年第45週から2004年第12週)のインフルエンザにおける都道府県警報について、保健所ごとに発生・非発生を示した図を図II-3-1に示す。保健所における警報発生については○で示し、都道府県警報については方法1の警報発生を△、方法2の警報発生を□、方法3の警報発生を※とし、-を警報非発生とした。インフルエンザにおいては、各保健所で保健所別警報が2003年第50週から発生し2003年第12週まで発生するに伴い、方法3の警報が発生した。多くの保健所では警報発生するに伴って方法1、方法2での都道府県警報が発生し、その開始・終息時期はほぼ同様であった。表II-3-1から表II-3-14に1999-2003年度における都道府県別定点あたり報告数、保健所別警報・注意報の発生延べ週数の年平均値を示し、都道府県警報については3つの方法ごとに年間平均発生週数を示した。表II-3-15から表II-3-28に都道府県警報の基準値変更による警報発生状況を示した。なお保健所の総数568、都道府県内の保健所数は、最大が神奈川県(38)、最小は島根県(3)、平均値は12.1、5%点6、75%点14と右に裾を引く分布であった。以下に疾患ごとに結果を示す。

(1) インフルエンザ

1999-2003年度の年間平均値でみると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は182.9、最小は98.4(東京都)、最大は242.8(大分県)であった。警報あり延べ週数の割合では中央値5.2%(和歌山県)、最小1.6%(大阪府)、最大8.4%(大分県)であった。注意報あり延べ週数の割合では中央値4.6%(岡山県)、

最小 2.3%(沖縄県)、最大 7.1%(宮城県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値 2.8週(最小 0.0、最大 5.8)、方法2では中央値 2.6週(最小 0.0、最大 5.6)、方法3では中央値 6.6(最小 2.6、最大 11.6)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法1で 3.8週、1.8週、方法2で 3.9週、1.2週と変化した。

(2)咽頭結膜熱

1999-2003 年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 8.6、最小は 1.6(沖縄県)、最大は 16.0(大分県)であった。警報あり延べ週数の割合では中央値 3.5%(埼玉県)、最小は 0.0%(栃木県、沖縄県)、最大 7.4%(宮崎県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値 0.0週(最小 0.0、最大 6.4)、方法2では中央値 0.0週(最小 0.0、最大 3.4)、方法3では中央値 11.0(最小 2.6、最大 30.6)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法1で 1.7週、0.2週、方法2で 1.1週、0.0週と変化した。

(3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

1999-2003 年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 48.4、最小は 13.6(沖縄県)、最大は 153.5(鳥取県)であった。警報あり延べ週数の割合では中央値 4.6%(岩手県)、最小 0.0%(沖縄県)、最大 33.7%(鳥取県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値 0.0週(最小 0.0、最大 17.6)、方法2では中央値 0.0週(最小 0.0、最大 17.6)、方法3では中央値 19.2(最小 2.6、最大 48.6)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法1で 2.7週、0.4週、方法2で 3.0週、0.3週と変化した。

(4)感染性胃腸炎

1999-2003 年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 298.3、最小は 59.5(沖縄県)、最大は 606.1(宮崎県)であった。警報あり延べ週数の割合では中央値 5.0%(千葉県)、最小 0.0%(沖縄県)、最大 24.5%(宮崎県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値 0.8週(最小 0.0、最大 13.8)、方法2では中央値 0.6週(最小 0.0、最大 11.0)、方法3では中央値 14.6(最小 2.6、最大 39.0)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法1で 4.0週、0.7週、方法2で 4.3週、0.4週と変化した。

(5)水痘

1999-2003 年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 91.8、最小は 47.9(神奈川県)、最大は 144.1(宮崎県)であった。警報あり延べ週数の割合では中央値 2.7%(三重県)、最小 0.4%(東京都)、最大 11.8%(宮崎県)であった。注意報あり延べ週数の割合では中央値 6.3%(千葉県)、最小 2.0%(東京都)、最大 12.9%(宮城県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値 0.0週(最小 0.0、最大 5.6)、方法2では中央値 0.0週(最小 0.0、最大 5.0)、方法3では中央値 11.2(最小 2.6、最大 34.2)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法1で 0.9週、0.1週、方法2で 1.0週、0.1週と変化した。

(6)手足口病

1999-2003 年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 41.7、最小は 26.2

(滋賀県)、最大は 81.3(大分県)であった。警報あり延べ週数では中央値 5.5(新潟県)、最小 1.8(滋賀県)、最大 13.0(愛媛県)であった。都道府県警報の発生週数は方法 1 では中央値 1.6 週(最小 0.0、最大 6.6)、方法 2 では中央値 1.8 週(最小 0.0、最大 6.2)、方法 3 では中央値 10.6(最小 2.6、最大 21.8)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法 1 で 3.7 週、1.2 週、方法 2 で 3.7 週、0.8 週と変化した。

(7)伝染性紅斑

1999-2003 年度の年間平均値でみると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 14.1、最小は 4.8(沖縄県)、最大は 25.9(宮城県)であった。警報あり延べ週数では中央値 3.3(神奈川県)、最小 0.0(沖縄県)、最大 11.2(山形県)であった。都道府県警報の発生週数は方法 1 では中央値 0.0 週(最小 0.0、最大 3.0)、方法 2 では中央値 0.0 週(最小 0.0、最大 5.8)、方法 3 では中央値 12.2(最小 2.6、最大 33.6)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法 1 で 1.4 週、0.1 週、方法 2 で 1.4 週、0.0 週と変化した。

(8)百日咳

1999-2003 年度の年間平均値でみると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 0.7、最小は 0.1(山梨県)、最大は 1.8(山形県)であった。警報あり延べ週数では中央値 0.1(12 県)、最小 0.0(15 県)、最大 2.1(山形県)であった。都道府県警報の発生週数は方法 1 では中央値 0.0 週(最小 0.0、最大 0.0)、方法 2 では中央値 0.0 週(最小 0.0、最大 0.0)、方法 3 では中央値 0.4(最小 0.0、最大 6.6)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法 1 で 0.0 週、0.0 週、方法 2 で 0.0 週、0.0 週であった。

(9)風疹

1999-2003 年度の年間平均値でみると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 0.8、最小は 0.2(佐賀県)、最大は 4.4(岡山県)であった。警報あり延べ週数では中央値 0.2(秋田県)、最小 0.0(8 県)、最大 3.3(岡山県)であった。都道府県警報の発生週数は方法 1 では中央値 0.0 週(最小 0.0、最大 2.2)、方法 2 では中央値 0.0 週(最小 0.0、最大 0.0)、方法 3 では中央値 1.0(最小 0.0、最大 10.8)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法 1 で 0.1 週、0.0 週、方法 2 で 0.1 週、0.0 週と変化した。

(10)ヘルパンギーナ

1999-2003 年度の年間平均値でみると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 48.0、最小は 6.1(沖縄県)、最大は 74.2(宮城県)であった。警報あり延べ週数では中央値 6.7(大阪府)、最小 0.0(沖縄県)、最大 13.6(富山県)であった。都道府県警報の発生週数は方法 1 では中央値 2.6 週(最小 0.0、最大 7.2)、方法 2 では中央値 2.4 週(最小 0.0、最大 7.2)、方法 3 では中央値 11.2(最小 2.6、最大 23.8)となった。1999-2003 年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を 30%、70%に変化させた場合、方法 1 で 4.6 週、1.3 週、方法 2 で 4.8 週、1.0 週と変化した。

(11)麻疹

1999-2003 年度の年間平均値でみると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は 5.1、最小は 0.8

(新潟県)、最大は16.4(高知県)であった。警報あり延べ週数の割合では中央値1.7%(岩手県、岐阜県、長崎県)、最小0.0%(山形県)、最大10.3%(沖縄県)であった。注意報あり延べ週数の割合では中央値3.4%(東京都)、最小0.4%(山形県)、最大7.9%(奈良県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値0.0週(最小0.0、最大6.2)、方法2では中央値0.0週(最小0.0、最大6.6)、方法3では中央値7.2(最小2.6、最大21.2)となった。1999-2003年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を30%、70%に変化させた場合、方法1で1.3週、0.3週、方法2で1.2週、0.1週と変化した。

(12) 流行性耳下腺炎

1999-2003年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は51.7、最小は26.4(東京都)、最大は82.4(宮崎県)であった。警報あり延べ週数の割合では中央値4.1%(徳島県)、最小0.4%(滋賀県)、最大9.6%(新潟県)であった。注意報あり延べ週数の割合では中央値3.9%(岡山県)、最小1.2%(東京都)、最大8.4%(宮崎県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値0.0週(最小0.0、最大6.8)、方法2では中央値0.0週(最小0.0、最大6.8)、方法3では中央値13.2(最小2.6、最大44.0)となった。1999-2003年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を30%、70%に変化させた場合、方法1で1.9週、0.5週、方法2で2.0週、0.2週と変化した。

(13) 急性出血性結膜炎

1999-2003年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は1.4、最小は0.3(石川県)、最大は28.7(長崎県)であった。警報あり延べ週数では中央値1.5(秋田県、山形県、和歌山県)、最小0.0(大分県)、最大22.8(長崎県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値0.0週(最小0.0、最大1.4)、方法2では中央値0.0週(最小0.0、最大0.2)、方法3では中央値4.2(最小2.6、最大46.0)となった。1999-2003年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を30%、70%に変化させた場合、方法1で0.7週、0.0週、方法2で0.1週、0.0週と変化した。

(14) 流行性角結膜炎

1999-2003年度の年間平均値で見ると、都道府県別定点あたり報告数の中央値は50.4、最小は17.6(富山県)、最大は177.0(宮崎県)であった。警報あり延べ週数では中央値0.9(奈良県)、最小0.0(和歌山県、鳥取県、島根県)、最大16.6(茨城県)であった。都道府県警報の発生週数は方法1では中央値0.0週(最小0.0、最大0.6)、方法2では中央値0.0週(最小0.0、最大0.0)、方法3では中央値3.8(最小2.6、最大47.8)となった。1999-2003年度の都道府県警報が発生した平均週数は、都道府県警報の基準を30%、70%に変化させた場合、方法1で0.8週、0.0週、方法2で0.2週、0.0週と変化した。

図Ⅱ-3-1 インフルエンザにおける保健所別警報および都道府県警報の発生状況
(2003年第45週-2004年第12週)

県・保健所番号	2002年			2003年				県・保健所番号	2002年			2003年			
	45	50	52	1	5	10	12		45	50	52	1	5	10	12
1 10	-	-	-	-	-	-	-	8 51	-	-	-	-	-	-	-
1 36	-	-	-	-	-	○	○	8 53	-	-	-	○	○	○	-
1 37	-	-	-	-	-	○	○	8 55	-	-	-	○	○	○	-
1 51	-	-	-	-	-	○	○	8 56	-	-	-	○	○	○	-
1 53	-	-	-	-	-	○	○	8 57	-	-	-	-	-	-	-
1 54	-	-	-	-	-	○	○	8 58	-	-	-	○	○	○	-
1 59	-	-	-	-	-	-	-	8 59	-	-	-	-	-	-	-
1 61	-	-	-	-	-	-	-	8 62	-	-	-	-	-	-	-
1 62	-	-	-	-	-	-	-	8 64	-	-	-	-	-	-	-
1 63	-	-	-	-	○	○	○	8 65	-	-	-	-	-	-	-
1 65	-	-	-	-	-	-	-	8 69	-	-	-	-	-	-	-
1 67	-	-	-	-	-	-	-	8 70	-	-	-	○	○	○	-
1 68	-	-	-	-	○	○	○	8 M1	-	-	-	-	-	-	-
1 69	-	-	-	-	○	○	○	8 M2	-	-	-	-	-	-	-
1 72	-	-	-	-	○	○	○	8 M3	-	-	-	※	※	※	※
1 73	-	-	-	-	○	○	○	9 31	-	-	-	-	-	-	-
1 75	-	-	-	-	○	○	○	9 32	-	-	-	-	-	-	-
1 77	-	-	-	-	○	○	○	9 33	-	-	-	○	○	○	-
1 78	-	-	-	-	○	○	○	9 34	-	-	-	○	○	○	-
1 79	-	-	-	-	○	○	○	9 35	-	-	-	-	-	-	-
1 84	-	-	○	○	-	-	-	9 36	-	-	-	-	-	-	-
1 88	-	-	○	○	-	-	-	9 37	-	-	-	-	-	-	-
1 87	-	-	-	-	-	-	-	9 38	-	-	-	-	-	-	-
1 88	-	-	-	-	-	-	-	9 39	-	-	-	○	○	○	-
1 90	-	-	-	-	○	○	○	9 M1	-	-	-	□	□	□	-
1 92	-	-	-	-	○	○	○	9 M2	-	-	-	※	※	※	※
1 93	-	-	-	-	○	○	○	9 M3	-	-	-	※	※	※	※
1 95	-	-	-	-	-	-	-	10 51	-	-	-	-	-	-	-
1 M1	-	-	-	-	△	△	△	10 54	-	-	-	○	○	○	-
1 M2	-	-	-	-	□	□	□	10 56	-	-	-	○	○	○	-
1 M3	-	-	※	※	※	※	※	10 57	-	-	-	○	○	○	-
2 51	-	-	-	-	○	○	○	10 58	-	-	-	○	○	○	-
2 52	-	-	-	-	○	○	○	10 60	-	-	-	○	○	○	-
2 53	-	-	-	-	○	○	○	10 61	-	-	-	○	○	○	-
2 55	-	-	-	-	○	○	○	10 62	-	-	-	○	○	○	-
2 58	-	-	-	-	○	○	○	10 63	-	-	-	○	○	○	-
2 59	-	-	-	-	○	○	○	10 64	-	-	-	○	○	○	-
2 M1	-	-	-	-	△	△	△	10 65	-	-	-	○	○	○	-
2 M2	-	-	-	-	□	□	□	10 M1	-	-	-	□	□	□	-
2 M3	-	-	-	-	※	※	※	10 M2	-	-	-	※	※	※	※
3 51	-	-	-	-	○	○	○	10 M3	-	-	-	※	※	※	※
3 53	-	-	-	-	○	○	○	11 1	-	-	-	○	○	○	-
3 54	-	-	-	-	○	○	○	11 32	-	-	-	○	○	○	-
3 55	-	-	-	-	○	○	○	11 52	-	-	-	○	○	○	-
3 57	-	-	-	-	○	○	○	11 53	-	-	-	○	○	○	-
3 59	-	-	-	-	○	○	○	11 55	-	-	-	○	○	○	-
3 61	-	-	-	-	○	○	○	11 56	-	-	-	○	○	○	-
3 62	-	-	-	-	○	○	○	11 57	-	-	-	○	○	○	-
3 64	-	-	-	-	○	○	○	11 59	-	-	-	○	○	○	-
3 65	-	-	-	-	○	○	○	11 60	-	-	-	○	○	○	-
3 M1	-	-	-	-	△	△	△	11 61	-	-	-	○	○	○	-
3 M2	-	-	-	-	□	□	□	11 62	-	-	-	○	○	○	-
3 M3	-	-	-	-	※	※	※	11 63	-	-	-	○	○	○	-
4 1	-	-	-	-	○	○	○	11 64	-	-	-	○	○	○	-
4 2	-	-	-	-	○	○	○	11 65	-	-	-	○	○	○	-
4 3	-	-	-	-	○	○	○	11 67	-	-	-	○	○	○	-
4 4	-	-	-	-	○	○	○	11 66	-	-	-	○	○	○	-
4 4	-	-	-	-	○	○	○	11 69	-	-	-	○	○	○	-
4 5	-	-	-	-	○	○	○	11 70	-	-	-	○	○	○	-
4 51	-	-	-	-	○	○	○	11 71	-	-	-	○	○	○	-
4 52	-	-	-	-	○	○	○	11 72	-	-	-	○	○	○	-
4 53	-	-	-	-	○	○	○	11 73	-	-	-	○	○	○	-
4 54	-	-	-	-	○	○	○	11 74	-	-	-	○	○	○	-
4 56	-	-	-	-	○	○	○	11 M1	-	-	-	△	△	△	-
4 63	-	-	-	-	○	○	○	11 M2	-	-	-	□	□	□	-
4 64	-	-	-	-	○	○	○	11 M3	-	-	-	※	※	※	※
4 M1	-	-	-	-	△	△	△	12 1	-	-	-	○	○	○	-
4 M2	-	-	-	-	□	□	□	12 31	-	-	-	○	○	○	-
4 M3	-	-	-	-	※	※	※	12 32	-	-	-	○	○	○	-
5 31	-	-	-	-	○	○	○	12 33	-	-	-	○	○	○	-
5 52	-	-	-	-	○	○	○	12 54	-	-	-	-	-	-	-
5 53	-	-	-	-	○	○	○	12 55	-	-	-	○	○	○	-
5 54	-	-	-	-	○	○	○	12 60	-	-	-	○	○	○	-
5 57	-	-	-	-	○	○	○	12 61	-	-	-	○	○	○	-
5 58	-	-	-	-	○	○	○	12 62	-	-	-	○	○	○	-
5 61	-	-	-	-	○	○	○	12 63	-	-	-	○	○	○	-
5 62	-	-	-	-	○	○	○	12 68	-	-	-	○	○	○	-
5 63	-	-	-	-	○	○	○	12 69	-	-	-	○	○	○	-
5 M1	-	-	-	-	△	△	△	12 70	-	-	-	○	○	○	-
5 M2	-	-	-	-	□	□	□	12 71	-	-	-	○	○	○	-
5 M3	-	-	-	-	※	※	※	12 72	-	-	-	○	○	○	-
6 53	-	-	-	-	-	-	-	12 73	-	-	-	○	○	○	-
6 54	-	-	○	○	-	-	-	12 M1	-	-	-	□	□	□	-
6 61	-	-	○	○	-	-	-	12 M2	-	-	-	※	※	※	※
6 62	-	-	-	-	-	-	-	12 M3	-	-	-	※	※	※	※
6 M1	-	-	-	-	-	-	-	7 31	-	-	-	○	○	○	-
6 M2	-	-	※	※	※	-	-	7 32	-	-	-	○	○	○	-
6 M3	-	-	※	※	※	-	-	7 70	-	-	-	○	○	○	-
7 31	-	-	-	-	○	○	○	7 71	-	-	-	○	○	○	-
7 32	-	-	-	-	○	○	○	7 72	-	-	-	○	○	○	-
7 70	-	-	-	-	○	○	○	7 73	-	-	-	○	○	○	-
7 71	-	-	-	-	○	○	○	7 74	-	-	-	○	○	○	-
7 72	-	-	-	-	○	○	○	7 75	-	-	-	○	○	○	-
7 73	-	-	-	-	○	○	○	7 M1	-	-	-	-	-	-	-
7 74	-	-	-	-	○	○	○	7 M2	-	-	-	□	□	□	-
7 75	-	-	-	-	○	○	○	7 M3	-	-	-	※	※	※	※
7 M1	-	-	-	-	-	-	-								
7 M2	-	-	-	-	-	-	-								
7 M3	-	-	-	-	-	-	-								

M1:方法1 △:都道府県警報発生 M2:方法2 □:都道府県警報発生
M3:方法3 ※:都道府県警報発生 -:警報非発生 (続く)

県・保健所番号	2002年			2003年			
	45	50	52	1	5	10	12
13 27							
13 31							
13 37							
13 42					○	○	
13 48							
13 50					○	○	
13 52					○	○	○
13 54					○	○	
13 55							
13 56							
13 57							
13 58					○	○	
13 59							
13 60							
13 61							
13 62							
13 63							
13 64							
13 65					○	○	
13 66							
13 67							
13 68					○	○	
13 69							
13 71							
13 72					○	○	○
13 73							
13 75							
13 85					○	○	
13 91					○	○	
13 92					○	○	○
13 97					○	○	
13 M1					○	○	
13 M2					※	※	※
13 M3					※	※	※
14 1							
14 3							
14 4							
14 5							
14 6							
14 7					○	○	○
14 8							
14 9					○	○	
14 10							
14 11					○	○	
14 12							
14 13					○	○	○
14 14							
14 15							
14 16							
14 19							
14 20							
14 21							
14 22					○	○	
14 23					○	○	
14 24					○	○	
14 25					○	○	○
14 26					○	○	
14 27					○	○	
14 28					○	○	
14 41					○	○	
14 51					○	○	
14 52					○	○	
14 53					○	○	
14 54					○	○	
14 55					○	○	
14 56					○	○	
14 57					○	○	
14 58					○	○	
14 59					○	○	
14 60					○	○	
14 61					○	○	
14 62					○	○	
14 M1					○	○	
14 M2					※	※	※
14 M3					※	※	※
15 33					○	○	
15 51					○	○	
15 52					○	○	
15 53					○	○	
15 54					○	○	
15 57					○	○	
15 59					○	○	
15 60					○	○	
15 61					○	○	
15 62					○	○	
15 66					○	○	
15 67					○	○	
15 68					○	○	
15 69					○	○	
15 M1					○	○	
15 M2					※	※	※
15 M3					※	※	※

県・保健所番号	2002年			2003年			
	45	50	52	1	5	10	12
16 31					○	○	○
16 53					○	○	○
16 61							
16 62							
16 63					○	○	○
16 M1					○	○	○
16 M2					※	※	※
16 M3					※	※	※
17 34							
17 62							
17 63					○	○	○
17 64					○	○	○
17 65					○	○	○
17 M1					○	○	○
17 M2					○	○	○
17 M3					※	※	※
18 51					○	○	○
18 52					○	○	○
18 57					○	○	○
18 58					○	○	○
18 59					○	○	○
18 60					○	○	○
18 M1					○	○	○
18 M2					○	○	○
18 M3					※	※	※
19 51					○	○	○
19 52					○	○	○
19 53					○	○	○
19 54					○	○	○
19 55					○	○	○
19 56					○	○	○
19 58					○	○	○
19 57					○	○	○
19 M1					○	○	○
19 M2					○	○	○
19 M3					※	※	※
20 31					○	○	○
20 51					○	○	○
20 53					○	○	○
20 54					○	○	○
20 56					○	○	○
20 57					○	○	○
20 58					○	○	○
20 59					○	○	○
20 61					○	○	○
20 66					○	○	○
20 68					○	○	○
20 M1					○	○	○
20 M2					○	○	○
20 M3					※	※	※
21 34							
21 51					○	○	○
21 53					○	○	○
21 58					○	○	○
21 59					○	○	○
21 60					○	○	○
21 62					○	○	○
21 M1					○	○	○
21 M2					○	○	○
21 M3					※	※	※
22 33					○	○	○
22 34					○	○	○
22 51					○	○	○
22 53					○	○	○
22 57					○	○	○
22 58					○	○	○
22 71					○	○	○
22 72					○	○	○
22 73					○	○	○
22 74					○	○	○
22 75					○	○	○
22 M1					○	○	○
22 M2					○	○	○
22 M3					※	※	※
23 1							
23 2							
23 3					○	○	○
23 4					○	○	○
23 5					○	○	○
23 6					○	○	○
23 7					○	○	○
23 8					○	○	○
23 9					○	○	○
23 10					○	○	○
23 11					○	○	○
23 12					○	○	○
23 13					○	○	○
23 14					○	○	○
23 15					○	○	○
23 16					○	○	○
23 31					○	○	○
23 32					○	○	○
23 33					○	○	○
23 53					○	○	○
23 54					○	○	○
23 55					○	○	○
23 56					○	○	○
23 57					○	○	○
23 58					○	○	○
23 62					○	○	○
23 64					○	○	○
23 67					○	○	○
23 68					○	○	○
23 69					○	○	○
23 74					○	○	○
23 75					○	○	○
23 M1					○	○	○
23 M2					○	○	○
23 M3					※	※	※

M 1:方法 1 △:都道府県警報発生 M 2:方法 2 □:都道府県警報発生
M 3:方法 3 ※:都道府県警報発生 - :警報非発生 (続)

県-保健所番号	2002年			2003年			
	45	50	52	1	5	10	12
40	8	-	-	-	-	-	-
40	9	-	-	-	-	-	-
40	10	-	-	-	-	-	-
40	11	-	-	-	○	○	○
40	12	-	-	-	○	○	○
40	13	-	-	-	○	○	○
40	14	-	-	-	○	○	○
40	15	-	-	-	○	○	○
40	41	-	-	-	-	-	-
40	54	-	-	-	○	○	○
40	57	-	-	-	-	-	-
40	58	-	-	-	○	○	○
40	59	-	-	-	○	○	○
40	60	-	-	-	○	○	○
40	65	-	-	-	○	○	○
40	67	-	-	-	○	○	○
40	68	-	-	-	○	○	○
40	71	-	-	-	○	○	○
40	74	-	-	-	-	-	-
40	75	-	-	-	-	-	-
40	76	-	-	-	○	○	○
40	77	-	-	-	○	○	○
40	M1	-	-	-	△	△	△
40	M2	-	-	-	□	□	□
40	M3	-	-	-	※	※	※
41	53	-	-	-	○	○	○
41	55	-	-	-	-	-	-
41	56	-	-	-	-	-	-
41	59	-	-	-	-	-	-
41	60	-	-	-	-	-	-
41	M1	-	-	-	-	-	-
41	M2	-	-	-	※	※	※
41	M3	-	-	-	※	※	※
42	33	-	-	-	○	○	○
42	34	-	-	-	○	○	○
42	61	-	-	-	○	○	○
42	64	-	-	-	-	-	-
42	65	-	-	-	-	-	-
42	66	-	-	-	○	○	○
42	67	-	-	-	-	-	-
42	68	-	-	-	○	○	○
42	69	-	-	-	○	○	○
42	70	-	-	-	○	○	○
42	M1	-	-	-	△	△	△
42	M2	-	-	-	□	□	□
42	M3	-	-	-	※	※	※
43	33	-	-	-	○	○	○
43	54	-	-	-	-	-	-
43	56	-	-	-	○	○	○
43	57	-	-	-	○	○	○
43	60	-	-	-	○	○	○
43	61	-	-	-	○	○	○
43	62	-	-	-	○	○	○
43	65	-	-	-	○	○	○
43	66	-	-	-	○	○	○
43	67	-	-	-	-	-	-
43	M1	-	-	-	△	△	△
43	M2	-	-	-	□	□	□
43	M3	-	-	-	※	※	※
44	31	-	-	-	○	○	○
44	52	-	-	-	○	○	○
44	56	-	-	-	○	○	○
44	57	-	-	-	○	○	○
44	58	-	-	-	○	○	○
44	59	-	-	-	○	○	○
44	62	-	-	-	○	○	○
44	64	-	-	-	○	○	○
44	65	-	-	-	○	○	○
44	66	-	-	-	○	○	○
44	M1	-	-	-	△	△	△
44	M2	-	-	-	□	□	□
44	M3	-	-	-	※	※	※
45	31	-	-	-	○	○	○
45	52	-	-	-	○	○	○
45	53	-	-	-	○	○	○
45	54	-	-	-	○	○	○
45	55	-	-	-	○	○	○
45	56	-	-	-	○	○	○
45	57	-	-	-	○	○	○
45	59	-	-	-	○	○	○
45	61	-	-	-	○	○	○
45	M1	-	-	-	△	△	△
45	M2	-	-	-	□	□	□
45	M3	-	-	-	※	※	※
46	33	-	-	-	○	○	○
46	51	-	-	-	○	○	○
46	52	-	-	-	-	-	-
46	53	-	-	-	-	-	-
46	54	-	-	-	-	-	-
46	55	-	-	-	-	-	-
46	56	-	-	-	-	-	-
46	57	-	-	-	-	-	-
46	58	-	-	-	-	-	-
46	59	-	-	-	○	○	○
46	60	-	-	-	-	-	-
46	61	-	-	-	-	-	-
46	62	-	-	-	-	-	-
46	63	-	-	-	-	-	-
46	64	-	-	-	○	○	○
46	65	-	-	-	-	-	-
46	M1	-	-	-	-	-	-
46	M2	-	-	-	※	※	※
46	M3	-	-	-	※	※	※
47	51	-	-	-	-	-	-
47	52	-	-	-	-	-	-
47	54	-	-	-	○	○	○
47	55	-	-	-	○	○	○
47	56	-	-	-	-	-	-
47	57	-	-	-	-	-	-
47	M1	-	-	-	△	△	△
47	M2	-	-	-	-	-	-
47	M3	-	-	-	※	※	※

M1:方法1 △:都道府県警報発生 M2:方法2 □:都道府県警報発生
M3:方法3 ※:都道府県警報発生 -:警報非発生

表 II - 3 - 1 1999-2003 年度における都道府県別定点あたり報告数、保健所別警報・注意報の発生延べ週数、都道府県警報発生週数の年平均値（インフルエンザ）

(インフルエンザ)

	保健所数	定点あたり 報告数	警報あり		注意報あり		都道府県警報の発生週数		
			延べ週数	(%)	延べ週数	(%)	方法1 (人口)	方法2 (保健所数)	方法3 (1保健所)
北海道	29	146.4	59.6	3.9	84.0	5.5	1.2	0.6	11.6
青森	6	171.2	14.0	4.5	21.0	6.7	1.6	1.6	7.0
岩手	10	200.4	35.6	6.8	29.8	5.7	4.0	3.8	7.4
宮城	12	183.6	32.8	5.2	44.8	7.1	1.4	2.0	7.8
秋田	9	220.7	27.8	5.9	28.6	6.1	3.0	2.4	7.4
山形	4	201.3	13.2	6.3	11.8	5.7	2.6	2.6	6.2
福島	8	174.2	18.8	4.5	23.6	5.7	2.0	2.6	6.2
茨城	12	105.6	13.2	2.1	31.0	4.9	0.6	0.8	3.6
栃木	6	145.3	13.8	4.4	14.4	4.6	1.2	2.4	5.2
群馬	11	153.9	31.4	5.5	25.2	4.4	2.0	2.6	6.8
埼玉	22	182.9	69.0	6.0	46.8	4.1	3.8	3.4	6.6
千葉	16	154.3	44.0	5.3	37.0	4.4	2.2	2.4	6.6
東京	31	98.4	31.8	2.0	66.6	4.1	0.4	0.0	5.0
神奈川	38	137.0	75.4	3.8	78.8	4.0	2.4	2.4	6.2
新潟	14	210.9	52.0	7.1	34.0	4.7	4.4	4.6	7.6
富山	5	197.3	14.2	5.4	13.2	5.1	2.6	2.6	5.8
石川	5	200.5	18.2	7.0	13.2	5.1	3.0	3.4	6.8
福井	6	206.1	21.6	6.9	11.6	3.7	4.6	4.4	5.8
山梨	8	154.5	19.2	4.6	17.2	4.1	3.2	2.8	5.6
長野	11	197.1	36.6	6.4	20.8	3.6	3.6	3.2	6.6
岐阜	8	144.5	16.8	4.0	18.4	4.4	2.0	2.6	4.4
静岡	11	191.5	41.0	7.1	21.0	3.7	3.4	3.4	7.0
愛知	32	181.0	83.8	5.0	67.2	4.0	3.6	3.2	8.0
三重	9	192.3	31.2	6.6	20.6	4.4	3.2	3.2	8.0
滋賀	7	143.2	15.4	4.2	14.2	3.9	2.4	2.4	3.8
京都	23	120.3	32.4	2.7	55.0	4.6	0.4	0.0	6.2
大阪	17	119.9	14.2	1.6	60.4	6.8	0.0	0.6	4.4
兵庫	29	154.4	77.8	5.1	75.8	5.0	0.8	2.2	10.0
奈良	6	154.3	14.6	4.7	19.0	6.1	2.6	2.6	5.0
和歌山	9	183.0	24.2	5.2	29.2	6.2	3.4	3.2	6.0
鳥取	3	191.5	13.0	8.3	6.6	4.2	4.2	4.2	6.4
島根	7	142.3	13.8	3.8	16.0	4.4	2.0	1.8	4.8
岡山	10	148.3	16.2	3.1	24.2	4.6	1.0	1.4	4.6
広島	10	146.8	24.4	4.7	20.4	3.9	2.8	3.0	4.6
山口	10	207.1	36.6	7.0	26.8	5.1	3.4	3.8	8.6
徳島	6	193.1	19.0	6.1	15.2	4.8	4.4	3.6	7.4
香川	5	144.1	7.6	3.6	15.2	6.4	1.8	1.8	2.6
愛媛	9	196.9	33.4	7.1	21.8	4.7	3.6	3.0	7.4
高知	6	174.1	16.4	5.2	19.2	6.1	3.6	3.4	7.4
福岡	22	231.4	72.4	6.3	58.4	5.1	4.2	3.8	9.0
佐賀	5	187.4	15.0	5.7	15.8	6.1	3.6	2.6	6.0
長崎	10	193.5	28.0	5.4	19.4	3.7	2.6	2.2	9.0
熊本	11	170.2	34.6	6.0	23.0	4.0	4.4	2.8	7.8
大分	10	242.8	43.6	8.4	20.4	3.9	5.8	5.6	8.8
宮崎	9	233.2	37.0	7.9	22.0	4.7	3.4	3.4	8.4
鹿児島	15	191.1	36.2	4.6	36.4	4.6	2.8	2.2	7.0
沖縄	6	193.8	14.2	4.5	7.2	2.3	3.6	2.0	4.8
中央値	12.1	182.9	27.8	5.2	21.8	4.6	2.8	2.6	6.6
最小値	3	98.4	7.6	1.6	6.6	2.3	0.0	0.0	2.6
最大値	38	242.8	83.8	8.4	84.0	7.1	5.8	5.6	11.6

方法1：警報発生した保健所の管轄人口の和を県内人口で除した値が50%を超えた週数

方法2：警報発生した保健所の総数を県内保健所数で除した値が50%を超えた週の数

方法3：都道府県内の保健所で警報発生があった週の数

警報・注意報あり延べ週数の%は、1保健所で一年間に発生した警報・注意報の週の割合を示す。

都道府県警報の発生週数の数値は各年度の警報発生延べ週数(左数値)と平均週数(右数値)を示す。

表 II - 3 - 2 1999-2003 年度における都道府県別定点あたり報告数、保健所別警報・注意報の発生延べ週数、都道府県警報発生週数の年平均値（咽頭結膜熱）

(咽頭結膜熱)

	保健所数	定点あたり 報告数	警報あり 延べ週数		都道府県警報の発生週数		
			(%)	(%)	方法1 (人口)	方法2 (保健所数)	方法3 (1保健所)
北海道	29	6.0	28.8	1.9	0.0	0.0	16.6
青森	6	4.8	7.6	2.4	0.0	0.0	7.6
岩手	10	3.3	7.8	1.5	0.0	0.0	7.8
宮城	12	4.4	6.6	1.1	0.0	0.0	6.6
秋田	9	9.0	14.8	3.2	0.0	0.0	10.0
山形	4	7.9	8.0	3.8	2.6	2.6	4.0
福島	8	2.9	2.8	0.7	0.0	0.0	2.8
茨城	12	3.6	2.0	0.3	0.0	0.0	1.6
栃木	6	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
群馬	11	6.7	16.4	2.9	0.0	0.8	10.2
埼玉	22	9.7	40.6	3.5	0.0	0.0	20.6
千葉	16	7.4	12.2	1.5	0.0	0.0	7.4
東京	31	5.0	16.6	1.0	0.0	0.0	11.4
神奈川	38	8.2	68.2	3.4	0.0	0.0	28.0
新潟	14	12.3	48.4	6.6	0.0	0.0	30.6
富山	5	7.5	9.4	3.6	0.0	1.2	6.4
石川	5	8.0	4.4	1.7	0.0	0.0	4.4
福井	6	11.9	22.0	7.1	4.0	1.4	14.0
山梨	8	2.7	4.0	1.0	0.0	0.0	4.0
長野	11	11.4	25.2	4.4	0.0	0.0	18.4
岐阜	8	9.9	16.8	4.0	0.0	0.0	12.6
静岡	11	10.7	29.4	5.1	0.0	0.0	19.8
愛知	32	7.6	49.8	3.0	0.0	0.0	20.0
三重	9	11.5	28.0	6.0	0.0	0.0	15.4
滋賀	7	14.2	18.2	5.0	0.0	0.0	16.6
京都	23	3.7	17.0	1.4	0.0	0.0	11.8
大阪	17	7.6	8.6	1.0	0.0	0.0	7.2
兵庫	29	9.4	80.6	5.3	0.0	0.0	29.8
奈良	6	5.5	7.6	2.4	0.0	0.0	7.6
和歌山	9	12.7	23.8	5.1	2.0	0.0	14.0
鳥取	3	13.6	8.6	5.5	3.4	3.4	5.2
島根	7	5.8	5.0	1.4	0.0	0.0	5.0
岡山	10	6.8	8.8	1.7	0.0	0.0	5.8
広島	10	11.9	24.4	4.7	0.0	0.0	13.4
山口	10	11.9	24.2	4.7	0.0	0.0	16.4
徳島	6	8.8	10.8	3.5	3.2	0.2	7.8
香川	5	8.6	10.2	4.1	1.2	0.8	7.6
愛媛	9	15.3	26.6	5.7	0.0	0.0	14.0
高知	6	9.0	13.2	4.2	1.2	0.8	11.0
福岡	22	9.1	65.4	5.7	1.0	1.0	26.6
佐賀	5	9.6	15.8	6.1	0.0	0.0	12.2
長崎	10	3.7	8.2	1.6	0.0	0.0	7.8
熊本	11	10.3	11.2	2.0	0.0	0.0	9.8
大分	10	16.0	38.0	7.3	6.4	3.0	13.0
宮崎	9	11.4	34.6	7.4	0.0	0.0	25.0
鹿児島	15	9.2	36.4	4.7	0.2	0.0	26.6
沖縄	6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中央値	12.1	8.6	15.8	3.5	0.0	0.0	11.0
最小値	3	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
最大値	38	16.0	80.6	7.4	6.4	3.4	30.6

方法1：警報発生した保健所の管轄人口の和を県内人口で除した値が50%を超えた週数

方法2：警報発生した保健所の総数を県内保健所数で除した値が50%を超えた週の数

方法3：都道府県内の保健所で警報発生があった週の数

警報・注意報あり延べ週数の%は、1保健所で一年間に発生した警報・注意報の週の割合を示す。

都道府県警報の発生週数の数値は各年度の警報発生延べ週数(左数値)と平均週数(右数値)を示す。

表 II - 3 - 3 1999-2003 年度における都道府県別定点あたり報告数、保健所別警報・注意報の発生延べ週数、都道府県警報発生週数の年平均値 (A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

(A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

	保健所数	定点あたり 報告数	警報あり 延べ週数	(%)	都道府県警報の発生週数		
					方法1 (人口)	方法2 (保健所数)	方法3 (1保健所)
北海道	29	77.2	209.0	13.8	1.2	0.4	48.6
青森	6	36.7	3.8	1.2	0.0	0.0	3.8
岩手	10	38.8	24.2	4.6	0.0	0.0	17.4
宮城	12	68.0	55.8	8.9	1.0	0.8	27.6
秋田	9	68.9	39.2	8.3	2.0	1.0	22.8
山形	4	117.5	44.2	21.2	9.8	12.8	25.8
福島	8	43.4	14.4	3.5	0.0	0.0	9.0
茨城	12	47.7	28.4	4.5	0.0	0.2	19.2
栃木	6	61.8	20.6	6.6	0.0	2.8	12.4
群馬	11	68.0	61.2	10.7	0.6	0.0	35.2
埼玉	22	73.5	83.2	7.2	0.0	0.0	29.8
千葉	16	69.9	70.4	8.4	0.0	0.2	29.0
東京	31	25.4	22.8	1.4	0.0	0.0	17.0
神奈川	38	43.7	77.8	3.9	0.0	0.0	28.6
新潟	14	97.4	145.6	19.9	4.6	5.8	40.6
富山	5	101.4	46.2	17.8	5.0	5.0	31.4
石川	5	53.3	13.4	5.1	0.0	0.4	10.6
福井	6	77.7	34.6	11.1	4.4	4.0	20.2
山梨	8	41.2	15.2	3.7	0.2	0.0	13.0
長野	11	77.9	64.0	11.1	0.0	0.0	36.6
岐阜	8	42.3	28.6	6.9	0.0	0.0	23.6
静岡	11	48.4	18.6	3.2	0.0	0.0	15.4
愛知	32	48.1	76.4	4.6	0.0	0.0	35.4
三重	9	53.7	44.4	9.5	0.0	0.0	31.0
滋賀	7	38.4	14.2	3.9	0.0	0.0	13.2
京都	23	31.4	53.0	4.4	0.0	0.0	33.4
大阪	17	33.3	2.6	0.3	0.0	0.0	2.2
兵庫	29	37.3	95.2	6.3	0.0	0.0	42.4
奈良	6	31.8	10.4	3.3	0.0	0.0	10.2
和歌山	9	32.1	7.4	1.6	0.0	0.0	6.8
鳥取	3	153.5	52.8	33.7	17.6	17.6	29.2
島根	7	27.0	10.6	2.9	0.0	0.0	10.6
岡山	10	28.9	1.8	0.3	0.0	0.0	1.8
広島	10	41.2	7.4	1.4	0.0	0.0	6.2
山口	10	70.6	72.4	13.9	0.0	0.2	40.0
徳島	6	43.2	6.2	2.0	1.0	0.0	5.8
香川	5	30.3	3.8	1.6	0.0	0.0	3.8
愛媛	9	62.1	16.2	3.5	0.2	0.0	12.8
高知	6	54.5	18.4	5.9	1.0	0.0	14.0
福岡	22	64.9	91.8	8.0	0.0	0.0	35.2
佐賀	5	60.3	22.0	8.4	0.0	0.0	20.2
長崎	10	24.6	12.8	2.5	0.0	0.0	12.0
熊本	11	52.0	22.6	3.9	0.0	0.0	17.6
大分	10	67.5	69.6	13.3	0.0	0.0	42.4
宮崎	9	89.0	70.2	15.0	1.2	0.4	38.4
鹿児島	15	31.6	14.2	1.8	0.0	0.0	12.2
沖縄	6	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中央値	12.1	48.4	24.2	4.6	0.0	0.0	19.2
最小値	3	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
最大値	38	153.5	209.0	33.7	17.6	17.6	48.6

方法 1 : 警報発生した保健所の管轄人口の和を県内人口で除した値が 50 % を超えた週数

方法 2 : 警報発生した保健所の総数を県内保健所数で除した値が 50% を超えた週の数

方法 3 : 都道府県内の保健所で警報発生があった週の数

警報・注意報あり延べ週数の%は、1 保健所で一年間に発生した警報・注意報の週の割合を示す。

都道府県警報の発生週数の数値は各年度の警報発生延週数(左数値)と平均週数(右数値)を示す。

表Ⅱ-3-4 1999-2003年度における都道府県別定点あたり報告数、保健所別警報・注意報の発生延べ週数、都道府県警報発生週数の年平均値（感染性胃腸炎）

(感染性胃腸炎)

	保健所数	定点あたり 報告数	警報あり 延べ週数		都道府県警報の発生週数		
				(%)	方法1 (人口)	方法2 (保健所数)	方法3 (1保健所)
北海道	29	119.3	21.6	1.4	0.0	0.0	20.2
青森	6	133.3	1.0	0.3	0.0	0.0	1.0
岩手	10	177.5	13.4	2.6	0.6	0.0	7.8
宮城	12	413.4	86.6	13.8	6.0	7.4	20.4
秋田	9	270.4	10.6	2.3	0.4	0.0	7.4
山形	4	347.1	10.8	5.2	1.2	1.8	7.6
福島	8	298.9	26.8	6.4	0.8	0.8	17.4
茨城	12	209.3	14.8	2.4	0.0	0.0	9.4
栃木	6	269.0	12.6	4.0	0.6	1.2	8.2
群馬	11	241.2	25.4	4.4	0.2	0.4	12.4
埼玉	22	372.4	82.0	7.1	2.4	1.4	18.6
千葉	16	298.3	41.6	5.0	1.4	0.6	12.4
東京	31	243.5	53.8	3.3	0.2	0.0	17.4
神奈川	38	282.2	90.8	4.6	0.6	0.2	14.6
新潟	14	341.3	59.8	8.2	1.6	0.8	25.0
富山	5	355.5	23.8	9.1	2.6	2.6	15.0
石川	5	420.6	23.2	8.9	1.8	1.2	17.4
福井	6	487.3	37.8	12.1	5.8	5.0	20.4
山梨	8	186.3	3.4	0.8	0.0	0.0	3.0
長野	11	350.6	47.8	8.3	0.6	0.8	25.2
岐阜	8	165.6	9.2	2.2	0.0	0.0	7.8
静岡	11	355.8	43.8	7.6	2.2	2.0	14.6
愛知	32	241.0	34.2	2.1	0.0	0.0	10.2
三重	9	460.0	80.6	17.2	2.4	5.2	26.0
滋賀	7	180.9	4.0	1.1	0.0	0.0	3.2
京都	23	326.5	78.6	6.6	0.0	0.0	31.2
大阪	17	229.9	15.0	1.7	0.0	0.0	8.6
兵庫	29	356.1	111.8	7.4	1.0	0.4	25.4
奈良	6	293.7	10.2	3.2	0.6	1.4	6.0
和歌山	9	259.9	17.8	3.8	2.6	0.0	10.0
鳥取	3	504.0	22.2	14.2	5.8	5.8	15.2
島根	7	237.2	12.2	3.3	0.0	0.0	10.2
岡山	10	268.9	13.4	2.6	0.4	0.6	10.0
広島	10	340.2	36.8	7.1	1.2	0.0	18.6
山口	10	413.4	91.8	17.6	2.0	3.8	37.4
徳島	6	267.4	9.0	2.9	0.4	0.6	7.0
香川	5	288.4	7.2	2.8	0.0	0.0	4.6
愛媛	9	412.0	39.6	8.4	4.0	2.8	14.0
高知	6	223.2	11.2	3.6	1.4	0.6	9.0
福岡	22	426.9	158.4	13.8	3.0	3.2	39.0
佐賀	5	303.4	26.6	10.2	0.8	1.6	17.0
長崎	10	207.7	12.2	2.3	0.0	0.0	8.8
熊本	11	361.4	66.4	11.6	3.8	4.0	20.8
大分	10	513.4	92.8	17.8	9.8	8.8	25.2
宮崎	9	606.1	115.0	24.5	13.8	11.0	25.6
鹿児島	15	351.1	43.8	5.6	2.8	0.4	15.2
沖縄	6	59.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中央値	12.1	298.3	25.4	5.0	0.8	0.6	14.6
最小値	3	59.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
最大値	38	606.1	158.4	24.5	13.8	11.0	39.0

方法1：警報発生した保健所の管轄人口の和を県内人口で除した値が50%を超えた週数

方法2：警報発生した保健所の総数を県内保健所数で除した値が50%を超えた週の数

方法3：都道府県内の保健所で警報発生があった週の数

警報・注意報あり延べ週数の%は、1保健所で一年間に発生した警報・注意報の週の割合を示す。

都道府県警報の発生週数の数値は各年度の警報発生延べ週数(左数値)と平均週数(右数値)を示す。

表Ⅱ-3-5 1999-2003年度における都道府県別定点あたり報告数、保健所別警報・注意報の発生延べ週数、都道府県警報発生週数の年平均値（水痘）

(水痘)

	保健所数	定点あたり 報告数	警報あり 延べ週数		注意報あり 延べ週数		都道府県警報の発生週数		
			(%)	(%)	(%)	方法1 (人口)	方法2 (保健所数)	方法3 (1保健所)	
北海道	29	92.6	83.6	5.5	85.6	5.7	0.0	0.0	34.0
青森	6	90.3	11.8	3.8	14.8	4.7	0.0	0.0	11.0
岩手	10	85.6	21.4	4.1	40.8	7.8	0.0	0.0	15.0
宮城	12	104.0	26.8	4.3	55.0	8.8	0.0	0.0	18.8
秋田	9	75.9	8.4	1.8	28.4	6.0	0.0	0.0	6.8
山形	4	120.4	15.4	7.4	22.0	10.5	1.2	3.0	11.2
福島	8	98.6	11.4	2.7	34.0	8.1	0.0	0.0	8.8
茨城	12	65.1	3.8	0.6	16.8	2.7	0.0	0.0	2.8
栃木	6	73.2	2.6	0.8	7.4	2.4	0.0	0.0	2.6
群馬	11	87.1	5.8	1.0	33.4	5.8	0.0	0.0	5.8
埼玉	22	91.8	12.4	1.1	67.2	5.8	0.0	0.0	8.8
千葉	16	85.7	6.4	0.8	52.6	6.3	0.0	0.0	5.4
東京	31	47.9	6.8	0.4	32.2	2.0	0.0	0.0	6.2
神奈川	38	74.0	13.2	0.7	77.8	3.9	0.0	0.0	10.0
新潟	14	125.0	48.8	6.7	78.6	10.8	1.0	0.4	23.0
富山	5	95.1	6.2	2.4	19.0	7.3	0.0	0.0	5.6
石川	5	110.4	11.4	4.4	27.0	10.3	0.0	0.0	11.4
福井	6	121.7	15.4	4.9	30.8	9.8	0.8	0.0	13.6
山梨	8	56.3	3.0	0.7	10.8	2.6	0.0	0.0	3.0
長野	11	115.7	35.8	6.2	62.0	10.8	0.0	0.0	19.4
岐阜	8	75.2	3.4	0.8	14.8	3.5	0.0	0.0	3.0
静岡	11	103.7	22.4	3.9	51.2	8.9	0.0	0.0	16.4
愛知	32	83.0	23.2	1.4	82.6	5.0	0.0	0.0	12.8
三重	9	96.9	12.8	2.7	34.2	7.3	0.0	0.0	11.6
滋賀	7	72.6	2.4	0.7	17.6	4.8	0.0	0.0	2.2
京都	23	61.1	17.2	1.4	44.4	3.7	0.0	0.0	13.4
大阪	17	65.2	3.4	0.4	19.2	2.2	0.0	0.0	3.4
兵庫	29	97.7	90.0	6.0	124.8	8.2	0.0	0.0	34.2
奈良	6	81.9	1.8	0.6	13.6	4.3	0.0	0.0	1.8
和歌山	9	95.3	17.6	3.7	34.8	7.4	0.0	0.0	15.2
鳥取	3	104.3	6.2	4.0	11.8	7.5	0.0	0.0	6.2
島根	7	72.8	8.4	2.3	19.2	5.3	0.0	0.0	6.8
岡山	10	77.2	2.0	0.4	15.8	3.0	0.0	0.0	2.0
広島	10	79.7	6.6	1.3	20.4	3.9	0.0	0.0	6.2
山口	10	102.5	37.8	7.3	52.8	10.1	0.0	0.0	23.0
徳島	6	84.2	4.6	1.5	15.6	5.0	0.0	0.0	4.4
香川	5	75.5	4.0	1.6	10.2	4.1	0.0	0.0	3.6
愛媛	9	103.8	23.4	5.0	46.4	9.9	0.0	0.0	17.0
高知	6	79.0	3.8	1.2	19.2	6.1	0.0	0.0	3.8
福岡	22	113.0	72.6	6.3	117.6	10.2	0.0	0.0	29.0
佐賀	5	122.5	17.6	6.7	30.8	11.8	0.0	0.0	15.2
長崎	10	72.7	11.6	2.2	24.4	4.7	0.0	0.0	11.2
熊本	11	111.8	22.8	4.0	49.2	8.6	0.4	0.0	13.0
大分	10	118.8	32.4	6.2	51.2	9.8	0.0	0.0	24.4
宮崎	9	144.1	55.6	11.8	60.8	12.9	4.6	2.4	24.6
鹿児島	15	99.9	41.6	5.3	53.6	6.8	0.2	0.0	23.4
沖縄	6	114.7	33.6	10.7	23.2	7.4	5.6	5.0	12.4
中央値	12.1	91.8	12.4	2.7	32.2	6.3	0.0	0.0	11.2
最小値	3	47.9	1.8	0.4	7.4	2.0	0.0	0.0	2.6
最大値	38	144.1	90.0	11.8	124.8	12.9	5.6	5.0	34.2

方法1：警報発生した保健所の管轄人口の和を県内人口で除した値が50%を超えた週数

方法2：警報発生した保健所の総数を県内保健所数で除した値が50%を超えた週の数

方法3：都道府県内の保健所で警報発生があった週の数

警報・注意報あり延べ週数の%は、1保健所で一年間に発生した警報・注意報の週の割合を示す。

都道府県警報の発生週数の数値は各年度の警報発生延べ週数(左数値)と平均週数(右数値)を示す。

表Ⅱ-3-6 1999-2003年度における都道府県別定点あたり報告数、保健所別警報・注意報の発生延べ週数、都道府県警報発生週数の年平均値(手足口病)

(手足口病)

	保健所数	定点あたり 報告数	警報あり 延べ週数	(%)	都道府県警報の発生週数		
					方法1 (人口)	方法2 (保健所数)	方法3 (1保健所)
北海道	29	34.6	78.6	5.2	0.8	0.2	20.8
青森	6	42.1	20.4	6.5	2.0	2.8	10.4
岩手	10	31.6	26.4	5.1	1.0	2.2	11.2
宮城	12	38.5	18.2	2.9	0.0	0.0	9.8
秋田	9	42.3	29.8	6.4	3.8	2.4	11.4
山形	4	57.7	19.4	9.3	2.6	5.2	11.8
福島	8	37.8	19.0	4.6	1.0	1.0	10.0
茨城	12	28.7	18.2	2.9	0.8	0.8	5.8
栃木	6	40.4	21.2	6.8	1.2	2.2	10.6
群馬	11	40.2	31.6	5.5	1.8	1.8	8.0
埼玉	22	44.1	70.2	6.1	2.4	2.6	10.6
千葉	16	36.0	36.4	4.4	0.8	1.0	11.0
東京	31	27.5	60.2	3.7	0.2	0.2	13.0
神奈川	38	38.8	79.6	4.0	1.4	1.2	12.8
新潟	14	42.6	40.4	5.5	1.6	1.8	14.4
富山	5	41.7	10.2	3.9	0.6	0.6	7.2
石川	5	37.0	7.2	2.8	0.0	0.0	6.6
福井	6	45.6	20.8	6.7	3.4	3.0	11.8
山梨	8	32.1	11.6	2.8	1.4	0.6	7.0
長野	11	54.4	47.6	8.3	3.2	2.2	15.6
岐阜	8	39.6	16.0	3.8	2.2	1.2	6.6
静岡	11	58.2	42.6	7.4	0.2	1.0	17.2
愛知	32	44.2	74.6	4.5	1.2	0.4	16.4
三重	9	44.2	31.4	6.7	1.6	2.4	12.6
滋賀	7	26.2	6.6	1.8	0.0	0.0	5.0
京都	23	29.1	29.6	2.5	0.0	0.0	11.8
大阪	17	28.7	33.2	3.8	1.0	1.2	7.2
兵庫	29	42.1	96.8	6.4	1.2	1.6	21.8
奈良	6	48.0	14.6	4.7	2.2	2.0	5.2
和歌山	9	40.9	26.0	5.6	2.2	2.4	8.0
鳥取	3	55.2	13.8	8.8	5.8	5.8	8.0
島根	7	39.9	24.6	6.8	1.6	2.0	10.0
岡山	10	35.6	14.0	2.7	1.0	0.8	7.2
広島	10	55.5	31.0	6.0	1.6	1.8	10.6
山口	10	66.4	55.0	10.6	4.8	5.2	15.4
徳島	6	35.6	11.2	3.6	1.8	1.4	6.4
香川	5	43.2	11.6	5.1	1.0	0.8	8.2
愛媛	9	73.2	61.0	13.0	5.8	6.2	17.8
高知	6	35.3	13.4	4.3	2.0	2.0	8.0
福岡	22	62.9	106.8	9.3	4.4	5.0	17.0
佐賀	5	80.6	25.6	9.8	4.0	4.2	10.4
長崎	10	39.3	28.2	5.4	1.8	1.0	12.4
熊本	11	78.4	56.6	9.9	6.6	3.8	15.2
大分	10	81.3	54.4	10.4	4.6	4.4	17.8
宮崎	9	79.1	58.4	12.4	4.2	3.4	19.4
鹿児島	15	54.6	53.8	6.9	3.8	2.6	19.2
沖縄	6	39.4	14.0	4.5	0.2	1.4	9.4
中央値	12.1	41.7	28.2	5.5	1.6	1.8	10.6
最小値	3	26.2	6.6	1.8	0.0	0.0	2.6
最大値	38	81.3	106.8	13.0	6.6	6.2	21.8

方法1：警報発生した保健所の管轄人口の和を県内人口で除した値が50%を超えた週数

方法2：警報発生した保健所の総数を県内保健所数で除した値が50%を超えた週の数

方法3：都道府県内の保健所で警報発生があった週の数

警報・注意報あり延べ週数の%は、1保健所で一年間に発生した警報・注意報の週の割合を示す。

都道府県警報の発生週数の数値は各年度の警報発生延べ週数(左数値)と平均週数(右数値)を示す。